みどりのきずな

平成２４年３月１５日 発行　第１７号

【緑区地域福祉計画基本理念】

『地域住民のきずなを深め、みんなが手を結び合い、住みよいまちづくりを推進する』

―明るい社会を築いてきた高齢者のために―

―未来を築く子どもたちのために―

―障害者（児）が希望を持って地域に生き、働けるために―

編集：緑区地域福祉計画推進協議会広報部会
発行：緑区地域福祉計画推進協議会事務局
（緑保健福祉センター　高齢障害支援課内）
千葉市緑区鎌取町 226 番地 1
TEL:043（292）8142　FAX:043（292）8276

開かれた地域福祉計画の推進を目指して ―一年目の推進―

委員長　岡本　博幸

第二期緑区地域福祉計画の推進は、平成二十三年四月～平成二十七年三月までの計画です。第二期の計画は、重点目標を設定し、それに向かって具現化を図っているところです。会議は、大きく三つに分けて検討しています。第一は、地区活動の報告、第二は、小委員会報告と協議、第三は、情報交換・研修です。

今回は、小委員会の活動について報告いたします。小委員会の目的の第一は、重点目標の実現のための検討会です。その内容を全体会で検討する骨子案を作成する会です。第二は、委員会のメンバーには、推進協議会の委員だけではなく、専門家・委員の推薦者のメンバーが入って委員会を構成し、内容の充実を図っています。第三は、各委員会が独自に会合を開催して協議・研修を深めていくことができる開かれた委員会です。

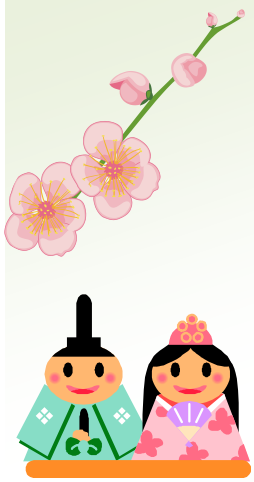
現在までに三委員会が設置されています。第一は「児童・生徒と高齢者との交流促進」、第二は「災害時における障害者の特性に応じた協力体制の構築に向けて」、第三は「地域の見守りネットワークの構築」の三分野です。その概略を述べてみたいと思います。

一．**「児童・生徒と高齢者との交流促進」**目的は、共に生きることの大切さ、素晴らしさを理解し合う（人間関係）・福祉の在り方を通して共に絆の大切さを理解し合う（福祉教育）。委員会人数は八人。活動内容は、手紙、絵手紙、随筆、短歌、俳句、川柳、習字を通して交流を図る。活動経過は、９／８：緑区内の学校、施設の実態把握。10／４：実態把握の現状報告。10／７：学校や施設の選定と対応、小学校二校、中学校三校、施設七園の交流を決定。11／９～10：学校、施設の訪問、チラシの作成を行いました。推進協議会では、二月から本格的実施に入ります。

二．**「平常時・災害時における障害者の対応」**目的は、平常時・災害時における障害者の特性に応じた協力体制の構築。委員会人数は八人。活動内容は、緑区区民に目的のリーフレットを作成し配布する。活動経過は、11／17：災害時の避難・移動、避難場所での対応の話し合い。12／８：他市の資料の検討、リーフレットの原案作成。１／26：完成リーフレットの検討、配布方法について。推進協議会では、リーフレットの内容と配布方法を検討しました。

三．**「地域の特性に応じた見守りネットワークの構築」**目的は、少子、高齢化の進展に伴い地域の特性に応じた見守りネットワークの構築を推進する。委員会人数は十人。活動内容は、見守りネットワークづくりと推進。活動経過は、11／17：他区の推進の現状とネットワーク研修。12／９：千葉市あんしんケアセンター（地域包括支援センター）としての緑区の現状。１／26：見守り事例の研修、活動の日程計画案。２／２：市内先進事例の視察研修「磯辺地区部会―磯辺福祉協力員ネットワーク」、「千葉県社会福祉士会―みまもーれ幸町」。推進協議会では、委員会と研修内容の報告をしました。

以上が小委員会の活動内容の概略です。会を設置することによって、話し合いの場が多くなり、多様な意見や情報を収集できるようになりました。今後も多くの方々の参加をいただき、開かれた推進協へと変貌したいと思っています。今後とも皆様の参加をお待ちしています。



TOPIX

◆地域と学校との交流～米づくりから感謝祭まで～（椎名地区）

子どもの成長に欠かすことができない学習に体験・経験学習があります。体で覚えたことは生涯忘れることなく生きて働く力となっていきます。また、多くの人から得た言葉や教訓は胸の中に残り、それが人生の支えになってくれることもあります。体験・経験は人と人との触れ合いから始まります。

椎名小は五年生になると地域の人々（民生委員・地区部会・ＪＡ・ライスセンター・ボランティア）と協力し、田植え、草取り、稲刈り、脱穀、太巻き寿司づくり、感謝祭の発表と一連の学習の場が組まれています。

田植えは、全員が裸足で田んぼに入り、一株一株を手で植え、草刈りは雑草の種類や稲の生長を学び、稲刈りは鎌で一株一株刈り、それをコンバインで脱穀・籾にして精米します。米は酢飯にされ長さ十五メートル海苔に具を入れて太巻き寿司が完成します。太巻き寿司は、給食時に全校児童でいただきます。

感謝祭には、米の歴史、種類、世界・日本の生産高、消費量、米の生産方法の比較、農具、作業方法、農繁期の手伝い、祭り等を図表や紙芝居、ペープサート、クイズ形式等にまとめて発表し、米づくりの集大成として学習が終わるのです。この時は、学習に関わってくれた方々が参加し、児童の体験や感想、学んだこと、調べたことの発表を聞きながらボランティアの方々との交流が深められます。

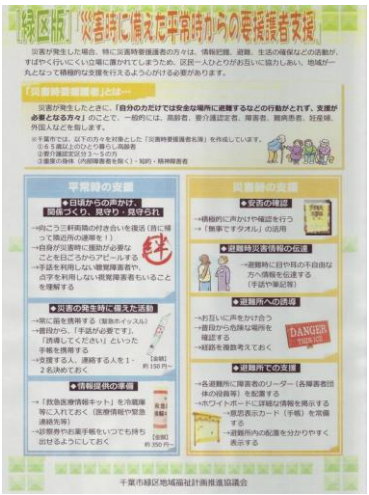
この一連の学習の特徴は、地域の方々との交流、次世代の子どもに地域農業文化を継承できることです。児童にとっては、米づくりの農業体験を体で感じ、米づくりがいかに大変であるかを学んでいくことです。彼等が、いつか日本の農業を考え推進していくパイオニアになってくれることを期待して毎年実施しています。

小委員会コーナー

四つの小委員会の活動状況について左記のとおり報告します。

◆災害時障害者対応

災害時における障害者の特性に応じた協力体制の構築に向けて検討する小委員会を、これまでに計三回開催しました。平常時の支援、災害時の支援内容をチラシ（Ａ４表）にまとめました。今後、このチラシの作成費捻出及び配布方法について協議検討していきます。



◆見守りネットワーク構築

見守りネットワークの構築に向けて検討する小委員会を、これまでに計三回開催しました。二月二日（木）には、美浜区へ「磯辺福祉協力員ネットワーク」及び「み・まもーれ幸町」の視察研修へ行ってきました。緑区まちそだて事業に申請し、予算を確保したうえで、アンケート調査や研修会を開催していく予定です。

◆学校生徒と施設入所者との交流

「手紙から始まる絆の出会い」を実践するため、緑区内の小・中学生と施設入所者の手紙等（絵手紙、短歌、川柳等）による交流を検討する小委員会を、これまでに計四回開催し、十一月に選定した小学校二校、中学校三校、六施設（軽費老人ホーム）をそれぞれ訪問しました。二月から本格的に交流を始めます。

◆災害時マップづくり

災害時における避難経路や避難場所（広域避難場所、避難所）、災害医療協力施設等を分かりやすく掲載した災害マップの作成方法について検討する小委員会を、今後開催していく予定です。

誉田地区

◆地域の子育てを地域で応援しています。

誉田地区部会では、原則毎月第四木曜日に緑保健福祉センターボランティア活動室において、午前十時～午前十一時三十分までふれあい・子育てサロンを開催しています。

皆さん熱心にアドバイスを…

このサロンは、子育て中のお母さん同士の情報交換や、お子さんと一緒に安心して過ごせる場所づくり、子育て経験者による育児相談を目的として開催しています。

参加対象は、歩けるようになった幼児とお母さん、お父さんです。

特に予約等は必要ないので、直接会場までお越しください。

たくさんのご参加をお待ちしています。

開催日程

H24年	H25年
4／26・5／31・6／28・7／26・8／22・9／27・10／18・11／22・12／27・	1／31・2／21・3／28

椎名地区

◆地域住民が福祉活動に参加しました。

善意がこんなに集まりました

「支え合う町」づくりの催し物のひとつである、「福祉・コミ懇まつり」が二月十二日（日）に椎名小学校にて開催されました。

「バザー」には地域性に富んだ農産品をはじめ、住民の善意の品が多数提供されていました。

集まった人の間で「お久しぶり」、「お元気でしたか」などの会話も飛び交っていました。

また、緑保健福祉センター健康課職員による健康相談も行われました。

◆世代を超えた「ふれあい」で金のタマゴが育っています。

十一月、十二月、一月、二月の計四回の「ふれあい食事会」の機会を利用して、椎名小学校六年生と世代を超えた交流をしました。

昔の学校のこと、その頃の生活の話などを学童たちもメモをしながら熱心に聴いていました。

ゲームを楽しむ！

土気地区

◆「なかの台サロン」（土気町）のご紹介

朝はどこからくるのかしら

あの空越えて～…の歌声で！

「なかの台サロン」は毎月第四水曜日午前十時から開催しています。地域の人と人とのつながり・コミュニケーションの場です。

★二十三年度における実施内容

（一）ミニ講座

・悪徳商法の手口と対処法

・健康と体力づくり　等

（二）バス見学「千葉県の歴史と文化を訪ねて」（大多喜城・波の伊彫刻）

（三）ストレッチ・懐かしい歌の合唱・懇談

大多喜城にて

現在会員四十八名。皆さん、たくさんの知識と経験をお持ちです。知恵を出し合い手づくりの「なかの台サロン」を運営しています。

人と人とのつながりの輪が広がり「いつまでも健康であること」・「ストレスを解消し心が前向きであること」・「明るい地域であること」を目指しています。

◆「サンヴェールいきいきサロン」（高津戸町）のご紹介

昨年四月にスタートして以来、講談を聞く会、盆踊り講習、防災に関する講演会、川柳大会、手話、子ども会とのジョイントクリスマス会、そして緑保健福祉センターの歯科医による歯科検診などを実施し、参加者の素敵な笑顔に会えました。

孤独になりがちなマンションライフが、月一回集会室に集い、お茶とお菓子を食べながら談話することで、一人ひとりが暖かい絆で結ばれ、元気で楽しいひと時を過ごしています。

おゆみ野地区

◆おゆみ野まちづくりフォーラムに参加して「セーブ・ザ・チルドレンの方のお話」

東日本大震災の被災地で子どもの支援に携わっていらっしゃる若い方からのレポートでした。子どもにとって遊び場所や共に学べる居場所が必要だとの考えから支援をスタートさせたそうです。その中で子どもも自分の考えや意見を言うことができ、大人とも意見を交換しながら復興に向けて力を発揮している様子を伺いました。

防災ということがテーマでしたが、こういう切り口からまちづくりを考えるというのも大事なのですね。東京のベッドタウンともいうべきわが町は、あの三月十一日の地震の時には家族の様子もわからず心配しましたが、これから予想される災害などの際に私たちはどんな関わり方ができるのでしょうか。子どもも含め、みんなで話し合ってみる必要があると感じました。

そして、子どもも大人も安全で安心して住み続けられるまちづくりの中心に子どもの笑顔があるのは素晴らしいだろうなと思ったことでした。

子どもたちとの楽しいひと時！

♪おゆみ野地区行事♪

◆さくらさくさくウォークラリー
平成２４年４月１日（日）
◆ふれあい・いきいきサロン
平成２４年５月１０日（木）
会場：鎌取C.C
◆ふれあい・子育てサロン
平成２４年５月２９日（火）
会場：おゆみ野公民館

※前回号において上記ふれあい・いきいきサロン日程に間違いがありました。大変失礼いたしました。

編集後記

みどりのきずなに最初から関わっていますが、今回それを目当てに職場を訪問してくださった方、前回の記事に掲載した膝掛けを作る毛糸集めのお手伝いができたことなど、うれしい報告ができます。ますますきずなが広がるといいなと思います。（T）

社協緑区事務所情報コーナー

緑保健福祉センター２階
ＴＥＬ：043－292－8185
ＦＡＸ：043－293－8284

みなさんこんにちは。今回は、私たちが行っているボランティア事業についてご紹介します。

緑区事務所は、緑区ボランティアセンターを併設しています。当センターでは、ボランティア活動に関心があり、参加したい、あるいはボランティアを必要とする個人・団体からの相談を随時受け付けています。

また、さまざまな情報を収集・発信し、皆さんのボランティア活動を応援しています。

主な内容として、①ボランティア活動の相談、登録受付、②福祉教育の推進、③ボランティアに関する情報提供、④ボランティア講座の開催、⑤ボランティア保険の取り扱い等を行っています。

何かボランティアに関するご相談等ありましたらお気軽にお立ち寄りください。

お待ちしていまーす！

千葉市社協マスコットキャラクター「ハーティちゃん」

今回は、「ハーティちゃん」の誕生エピソードを紹介します。

◆「ハーティちゃん」は、千葉市社会福祉協議会の創立６０周年を記念して、市民のみなさんに千葉市社会福祉協議会への親しみをより一層感じていただくため、地域福祉活動の親善大使として公募によって生まれました。